

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1-10	有 無
	請求の範囲		
進歩性(IS)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1-10	
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-10	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: JP 10-262690 A(昭和電工株式会社), 1998. 10. 06, 全文

文献2: JP 64-016713 A(ライオン株式会社), 1989. 01. 20, 全文

文献3: JP 60-153778 A(株式会社 ロッテ), 1985. 08. 13, 全文

請求の範囲1-10は、国際調査報告で引用された上記文献1、文献2及び文献3により進歩性を有しない。

文献1には、ポリフェノールを、アルカリ性を示す溶媒中で、酸素分子共存下、pH8以上で反応させることが教示されている。

また、文献2には、ポリフェノールを含む植物抽出物を溶媒中で酸素分子の共存下に反応させて得られる化合物を有効成分とする消臭剤組成物が記載されており、文献3には、ポリフェノールを含む植物体を酸素分子共存下に反応させて得られる有色の化合物を有効成分とする消臭剤組成物も記載されている。

してみると、ポリフェノール、植物抽出物または植物体を、アルカリ性を示す溶媒中で、酸素分子共存下、pH8以上で反応させて得られる有色の化合物を消臭剤の有効成分として消臭剤組成物を得ることは、当業者にとって容易である。

そして、反応中の酸素分子供給量を1mg/L以上とすること、反応温度を0~60℃の範囲とすること、反応系に金属イオンやα-アミノ酸を添加すること、及びo-ジフェノール構造を有するポリフェノールやヒドロキノンを用いることは、いずれも文献1乃至文献3のいずれかに記載又は示唆されているように格別のことでない。